



学校だより

平成27年12月22日
四日市市立小山田小学校

2学期終業～そして楽しい冬休み



「今年の漢字(日本漢字能力検定協会)」は、「安」に決定したということですが、みなさんにとってどんな1年だったでしょうか。

運動会の練習でスタートした2学期も今日で終わります。長い2学期には、他にも芋煮会やマラソン記録会など大きな行事がありました。

過ごしやすい秋には、勉強や運動にも一段と力が入りました。真剣に学び、楽しく遊び、熱心に掃除に取り組む小山田っ子の姿がありました。

保護者や地域のみなさまのご支援、ご協力によって、大きな事故もなく、子どもたちは安全・安心に学ぶことができました。ありがとうございました。



冬休みにがんばりたいこと

【自分ができる役割を果たそう】

いよいよ16日間(※注)の冬休みが始まります。

新しい年を迎えるこの時期は、いくつになってもワクワクしますが、ネコの手も借りたい忙しさです。

年末・年始にかけてご家庭でもいろいろと計画があることと思いますが、ぜひ、お子様にも何か役割を担わせていただきたいと思います。

家族の一員として役に立つことができたという達成感が、家族の絆を深め、働くことの喜びや価値を習得することにつながると聞きます。

「玄関の掃除は任せたよ」「窓ガラスふきは全部頼んだよ」などと責任をもたせてください。

【計画的に家庭学習に取り組もう】

宿題は、早めに取りかかり忘れずに仕上げましょう。他にも、読書や2学期に苦手だった勉強の復習をしましょう。また、なわとびやかけ足などをして寒さに負けない体づくりに取り組みましょう。

(※1) 学校教育では、24日からの15日間は冬季休業日となります。

【年末・年始のごあいさつをしよう】

年末・年始は、親戚の方をはじめお客さまに会う機会が多いことと思います。子どもたちには、この時期に特有の日本ならではの『あいさつ』をしっかりできるようにしてほしいと思います。

よいお年を(お迎えください)

明けましておめでとうございます

今年もよろしくお祈りします

2015年 → 2016年



出かけるときは、行き先などをお家の人にきちんと伝えよう!

- 【いつ】 ○時から●時まで
- 【だれと】 ○○さんと●●さんと
- 【どこで】 △△公園で
- 【なにを】 あそんでくるね!



<お知らせ>

- 学校が閉まっている日
 - 12月23日(天皇誕生日)
 - 12月29日～1月3日(年末・年始)
 - 1月4日(閉校日)
- 3学期始業式 1月8日(金)

おはよう！ またあした！ おやまだっ子通信



小山田小学校長

やったあ！ だいじょうぶ？ 子どもの『ええところ』を伸ばす

学期末に連絡表「あゆみ」をお渡ししました。『学校から家庭へ』の欄には、各担任から見た2学期のお子様の学校でのがんばりや成長の姿などを記させていただきました。

真面目な授業態度で成果を上げた子、興味をもって調べ学習に取り組んだ子、話し合い活動や発表に意欲的だった子、運動会や芋煮会などの行事で活躍した子、当番や係活動で責任を果たした子、…などなどです。

ところで、保護者の皆さまから見て、お子様にはどんないいところがあるのでしょうか？

ある研修会に参加したときに、「お子様のいいところを、具体的に10個書いてください」と問われたことがあります。参加者の多くが、案外、10個書くことに苦戦している様子でした。「注文したいことならいくらでも書けるけど…」と苦笑いしている人もいました。

さて、同じ質問を、子ども自身に向けて問いかけたときに、どんな答えが返ってくるのでしょうか？

「自分のいいところを、具体的に10個書いてください」

ある国際的な調査によると、外国の子どもに比べて、日本の子どもたちの『自己肯定感』（「自分のことが好きである」「自分がかげがえのない存在である」と肯定的に捉える感情）は低いという結果が出ています。

冬休みは、お家でお子様と向き合う時間が長くなると思います。ぜひ、お子様の「いいところ」をたくさん見つけて、褒めることでそのよさを伸ばしていただきたいと思います。（森本）



「ええところ」（作 くすのきしげのり）という絵本を紹介します。

「わたしのええところ 教えて」主人公のあいちゃんが、友だちのともちゃんに問います。「えーっとなあ…」と長いこと考えて、次の日、ともちゃんが言います。「あいちゃんの手、ものすごくあったかい」と。手をあたためてもらったクラスみんなから喜ばれたあいちゃんは、やがて気づきます。「一生けんめいええところを考えてくれたともちゃんがいちばんやさしいんや」と。

今生きているというだけで奇跡

本市で12月5日に行われたじんけんフェスタに参加し、女優で国連親善大使でもある紺野美沙子さんの講演を聞きました。講演の最後に、小説家の井上ひさしさん作の戯曲「きらめく星座」の一節の朗読がありました。

紺野さんの語りによって、言葉の一つ一つが心に染み入りました。紹介します。



この宇宙には4千億もの太陽が、星があると申します。それぞれの星が平均10億の惑星を引き連れているとすると、惑星の数は約4兆。その4兆の中に、この地球のように、ほどよい気温と豊かな水に恵まれた惑星はいくつあるでしょう。たぶん、いくつもないでしょう。

だから、この宇宙に地球のような水惑星があること自体が奇跡なのです…。

水惑星だからといって、必ず生命が発生するとはかぎりません。

しかし、地球にある時ちいさな生命が誕生しました。これも奇跡です。

その小さな生命が数かぎりない試練を経て、人間にまで至ったのも奇跡の連続です。

そして、その人間の中にあなたがいるというのも奇跡です。

こうして何億何兆もの奇跡が積み重なった結果、あなたもわたしも今、ここにこうしているのです。

わたしたちがいる。今生きているというだけで、もうそれは奇跡の中の奇跡なのです。

～井上ひさし「きらめく星座」より～

保護者の皆さま、よいお年をお迎えください。そして、来年も学校教育へのご支援・ご協力をお願いします（森本）